

令和 6 年 4 月 23 日(火)

浜田市議会議長

笹田 卓 様

議員名 肥後 孝俊

調査研究活動報告書

下記のとおり調査研究のため研修等を行ったので、その結果を報告します。

記

1. 期 間 令和 6 年 4 月 19 日 (金) ～ 4 月 20 日 (土)
2. 研修内容 地方議会を变革する生成 AI 活用講座
～地方議員がゼロから始める ChatGPT～
 - 1 時間目: 生成 AI と ChatGPT の活用: 基礎セッション
 - 2 時間目: 演習セッション (1)
 - ① 3 月議会の質問をブラッシュアップ
 - ② 6 月議会の質問項目と質問の文章を作成する
 - ③ 首長と質疑応答を行う
 - 3 時間目: 演習セッション (2)
 - ① 模擬議員間討議を行う ② 首長 bot と議員 bot を作成する
 - ③ 他の生成 AI の活用方法 ④ 質疑応答・意見交換 ⑤ 総括
3. 研修先 早稲田大学 日本橋キャンパス 東京都中央区 4 中央区 日本
橋 1 丁目 4-1 日本橋一丁目三井ビルディング コレド
日本橋 5 階
4. 調査経費 63,596 円
【経費内訳】

研修費	11,000 円	
高速料金	4,850 円	(浜田 IC⇔河内 IC)
航空機代	32,403 円	(広島⇔羽田)
電車代	1,486 円	
駐車料金	2,600 円	
燃料代	3,410 円	
宿泊費	7,847 円	



5. 調査研究活動の概要

論より証拠で、実際にセミナー終了後に生成 AI ChatGPT を活用し、浜田市における人口減少対策について質問を出していき、出てきた回答に対して深掘りしていった記録を以下に貼り付けます。

(私)

浜田市における人口減少対策の問題点は？

ChatGPT

浜田市における人口減少対策の施策を考える際に考慮すべき問題点は以下の通りです

1. 効果の測定と評価の難しさ - 人口減少対策の成果を短期間で測定し評価することは難しいです。施策の効果が顕著に表れるまでには時間がかかるため、中長期的な計画と持続的な資金投入が必要です。
2. 限られた資源 - 地方自治体は財政的に限られた資源を持っています。効果的な人口減少対策を実施するためには、国や他の地方自治体との連携を深め、効率的な資金配分が求められます。
3. 地域間の格差 - 浜田市内でも地域によって経済状況や生活環境が異なるため、一律の施策では効果が限定的になる恐れがあります。地域特有の問題に対応したカスタマイズされた対策が必要です。
4. 若者の流出 - 若者が求職や教育の機会を求めて大都市へ移住することは、人口減少を加速させる一因です。若者が地元に残るためのインセンティブの提供が重要となります。
5. 高齢化社会の進行 - 高齢化に伴う人口構成の変化は、地方自治体にとって大きな課題です。高齢者支援の拡充と若年層の支援を同時に進める必要があります。
6. 移住促進策の限界 - 他地域からの移住を促進する施策も一時的な効果に留まることが多く、持続的な人口増加にはつながりにくいです。地域が自立して魅力的になるための長期戦略が求められます。

これらの問題点を踏まえ、実効性のある施策を策定するためには、地元住民や事業者、地方政府が連携し、共通の目標に向けて取り組むことが重要です。

(私)

効果の測定と評価の難しさは、どうすれば数値化ができて、進捗具合が測れるようになりますか？

ChatGPT

効果の測定と評価の難しさを克服し、数値化して進捗具合を測るためには、以下のようなステップが有効です。

1. 明確な目標設定 - まず、具体的で測定可能な目標を設定します。例えば、「5年間で若年層の人口を 10%増加させる」など、数値目標を明確にすることが重要です。
2. 指標の設定 - 目標達成のためにどの指標を用いるか決めます。人口増減はもちろんのこと、就職率、移住者数、住宅建設数など、複数の関連指標を設定することで、多角的に進捗を測定できます。

3. データ収集の体制構築 - 定期的にデータを収集・更新する体制を整えます。地方自治体や国の統計、アンケート、民間のデータリソースを活用することが考えられます。
4. 中間評価の実施 - 長期的な目標に向けて、定期的に中間評価を行います。これにより、施策の効果を定点観測し、必要に応じて計画を調整できます。
5. 外部専門家の活用 - 客観的な評価を確保するために、外部の専門家やコンサルタントを活用することも有効です。彼らの知見を取り入れて、施策の改善点を見つけ出すことができます。
6. フィードバックの導入と改善 - 地域住民や関係者からのフィードバックを取り入れ、施策の適応と改善を図ります。実際に施策の影響を受ける住民の声を聞くことが非常に重要です。

これらのステップを通じて、効果の測定と評価の精度を高めることができます。また、進捗具合が明確になれば、その情報を基にしてより効果的な政策へとシフトすることも可能になります。

(私)

フィードバックの導入と改善について質問です。地域住民が人口減少により困ることがあるのは理解を示しますが、突然若者人口が増えて逆に戸惑うことが、おきないのが心配です。例えば、町内会や自治会に強引に入会させて反発をくらう。地域の習慣だといってボランティアにかりだすことや、若いからといって応援するのではなく、都合よく使うことなどです。

ChatGPT

6. の地域住民からのフィードバックを取り入れた改善を進める際に、急激な人口変化による戸惑いや問題を避けるためには、次のような取り組みが考えられます：

1. 透明性の確保とコミュニケーションの強化 - 地域の全住民が理解しやすいよう、人口増加施策の目的、予想される変化、それに伴う影響を明確に伝えることが重要です。情報共有の場を設け、オープンな議論を促進することで、受け入れの準備ができます。
2. 地域文化への配慮 - 新たに地域に移住する若者と地元住民との間で文化的なギャップが生じないように、お互いの価値観や文化を尊重し合う環境を作ることが必要です。地域の習慣や活動について、若者に理解を促すと同時に、彼らの意見や新しいアイデアも受け入れる柔軟性が求められます。
3. 地域参加の自由度の保障 - 新住民が地域社会に参加する際、強制ではなく自発的な参加を促進するよう努めることが大切です。町内会や自治会への参加、ボランティア活動への誘いも、選択肢の一つとして提案し、強制の感じさせないように配慮します。
4. 多様な意見の尊重と統合 - 地域会議やフォーラムを定期的で開催し、新旧住民が直接対話する機会を提供します。これにより、お互いのニーズや期待を共有し、地域社会全体としての調和を目指すことができます。
5. 若者支援プログラムの整備 - 若者が地域に定着しやすいよう、就職支援、住宅支援、教育機会の提供など、具体的なサポートプログラムを用意します。これにより、若者を「利用する」のではなく、「支援し、育てる」ことに重点を置きます。

これらの取り組みを通じて、地域住民と新住民の間に相互理解と協力の土壌を育て、

健全な地域社会の発展を目指すことが重要です。フィードバックはこのプロセスの中で重要な役割を果たし、継続的な改善を促します。

(私)論点を変えて

具体的な施策がなく、地域に補助金を引っ張るだけの議員と住民ではいつまでも地域がよくなることはないと考えますが、どのように改善する術があるのかお示してください。

ChatGPT

地域を改善し、実質的な発展を促進するためには、単に補助金を引っ張るだけの短期的な対策ではなく、長期的で持続可能なアプローチが必要です。以下に、具体的な改善策をいくつか提案します：

1. 地域発展計画の策定 - 地域全体のニーズを把握し、包括的な地域発展計画を策定することが重要です。この計画には、教育、医療、インフラ、産業振興、観光開発、文化活動の促進など、様々な側面が含まれるべきです。
2. 地域住民の参加と協働 - 地域住民が計画の策定や実行に積極的に関与することで、彼らのニーズやアイデアが政策に反映されます。住民参加型のワークショップやフォーラムを開催し、地域住民と行政が協力するモデルを構築します。
3. 公私パートナーシップの促進 - 地域の民間企業やNPO、教育機関との連携を強化します。これにより、地域に新たな投資を引き寄せるとともに、様々な社会問題に対する革新的な解決策を生み出すことができます。
4. 持続可能な経済モデルの導入 - 地域特有の資源を活用した産業を育て、外部依存度を減らします。例えば、農業、林業、漁業などの伝統産業に加え、エコツーリズムや地域ブランド商品の開発を進めることが挙げられます。
5. 教育と技能開発の強化 - 地域の若者に対する教育プログラムと職業訓練を充実させ、地元での就職機会を増やします。また、デジタルスキルや起業家精神の育成を通じて、新たなビジネスチャンスを創出します。
6. 透明性とアカウンタビリティの確保 - 地域住民が行政の活動を監視し、評価することができるよう、透明性とアカウンタビリティの高い運営体制を確立します。オンラインでの情報公開や、住民が意見を述べることができるプラットフォームの設置などが有効です。

これらの施策を実行するには、地域社会全体の合意形成と強固なリーダーシップが必要です。地元の議員や行政だけでなく、地域住民自身が積極的に関与し、持続可能な地域づくりを目指すことが重要です。

(私)

4. の持続可能な経済モデルの導入で、地域特有の資源が浜田市には魚介類と有機野菜が鍵となるものと考えますが、他産地との差別化を図るには、何が必要な施策か教えてください。

ChatGPT

浜田市が地域特有の資源である魚介類と有機野菜を活用して他産地との差別化を図るための施策を考える際に、以下の点を重視すると良いでしょう：

1. ブランド戦略の策定 - 地元産の魚介類と有機野菜の特性や品質を強調する独自ブ

ランドを創出します。このブランドを通じて、製品の物語性を伝え、消費者に対して価値ある選択肢として認識させることが重要です。

2. 認証制度の導入 - 地元産の魚介類と有機野菜に特定の品質基準を設け、それに基づいた認証制度を導入します。この認証は、製品の品質保証として機能し、消費者の信頼を得る手段となります。
3. 地域連携と協力体制の強化 - 近隣の農家、漁師、加工業者、小売業者などが一体となって協力する体制を築きます。これにより、一貫した品質管理と効率的な供給チェーンが確立され、市場への迅速な対応が可能になります。
4. マーケティングと販売戦略の革新 - オンライン販売プラットフォームの構築やSNSを活用したマーケティングを行い、国内外の新しい顧客層を開拓します。特に、地元産品のストーリーテリングを通じて、消費者に感情的なつながりを持たせることが効果的です。
5. 地域資源の持続可能な管理 - 魚介類の漁獲や有機野菜の栽培において、環境への影響を最小限に抑える持続可能な方法を採用します。これは環境保護を重視する消費者にとって、製品選択の重要なファクターとなります。
6. 教育とトレーニングの提供 - 地元の農家や漁師に対して、最新の持続可能な漁業・農業技術の教育やトレーニングを提供し、生産効率と製品の品質を向上させます。
7. 地域イベントと観光の活用 - 地元産の魚介類と有機野菜をフィーチャーした地域イベントやフェスティバルを開催し、観光客を惹きつけます。これにより、地元産品の魅力を直接体験してもらい、ファンを増やす機会を創出します。

これらの施策を総合的に実施することで、浜田市の魚介類と有機野菜は、他の産地と差別化された独自の価値を持つブランドとして位置づけられる可能性が高まります。

(私)

7. 地域イベントと観光の活用で、都市部からのアクセスが優れてはいないため、こちらから出向く戦略が効果的だと考えるが如何でしょうか。

ChatGPT

地域イベントと観光の活用において、アクセスが不便な地域から、積極的に都心部へ出向く「出張型イベント」戦略を採るのは非常に効果的です。これにより、地域の魅力を広範囲の人々に直接伝えることができ、以下のような利点があります：

1. ターゲット層の拡大 - 都市部でイベントを開催することで、通常は地方まで足を運ばないような新しい顧客層に直接アプローチできます。都市部の人々は新しい食体験や地域産品に興味を持っていることが多いため、効果的なマーケティングの機会となります。
2. ブランド認知の向上 - 都市部での露出を増やすことにより、ブランド認知度を高めることができます。地域の特産品を利用した料理のデモンストレーションや試食会を行うことで、参加者に直接体験してもらうことが可能です。
3. メディアの関心を引き寄せる - 都市部でイベントを開催すると、メディアの注目を集めやすくなります。新聞、テレビ、オンラインメディアなどがイベントを取り上げることで、さらなる広告効果が期待できます。
4. パートナーシップの構築 - 都市部でのイベントを通じて、他の企業や地域団体との連携を築くことができます。共同でプロモーションを行ったり、共通のテーマでイベントを開催したりすることで、リソースの共有や相乗効果を生むことが可能です。

す。

5. 観光促進 - 都市部でのイベントを契機に、訪れた人々がその後地方を訪れるきっかけになることもあります。実際に地域の文化や食に触れて魅力を感じた参加者は、地元を訪れてさらに深く体験したいと考えるかもしれません。

都市部への出向き型イベントは、地域の特色を都市部に持ち込むことで、新しい市場を開拓し、地域の知名度と魅力を広げるための有効な手段となります。それにより、より広い範囲でのブランド展開と観光促進が期待できるでしょう。

(私)

7. 地域イベントと観光の活用 - 地元産の魚介類と有機野菜をフィーチャーした地域イベントやフェスティバルを開催し、観光客を惹きつけます。これにより、地元産品の魅力を直接体験してもらい、ファンを増やす機会を創出します。とあるが、本当に自信のある水産品と野菜などを継続的な取引に繋げるには、地元とは違う階層の方へアピールしリピーターとなっていていただく必要があると考えるが、いかがでしょうか。

ChatGPT

地元産の水産品と野菜をフィーチャーした地域イベントを成功させ、継続的な取引とリピーター獲得に繋げるためには、地元と異なる階層や市場に積極的にアピールする戦略が非常に有効です。以下に具体的なアプローチをいくつか提案します。

1. ターゲット市場の明確化 - 地元産品に興味を持ちそうな市場や顧客層を特定します。例えば、高品質な有機野菜に興味を持つ健康志向の消費者や、特定の水産品を求める高級レストランなどが考えられます。
2. プレミアムブランディング - 地元産品を高品質でユニークな商品として位置づけ、プレミアムブランドとしてのイメージを構築します。品質の高さ、生産者の物語、環境への配慮など、購入を動機付ける要素を前面に押し出します。
3. マーケティング戦略の多様化 - デジタルマーケティング(SNSやメールマガジン)、イベントマーケティング(試食会や料理教室)、PR(メディアへの露出)など、様々な方法でターゲット顧客にアピールします。また、インフルエンサーや有名シェフとのコラボレーションを通じて、商品の魅力を伝えることも効果的です。
4. 体験型イベントの開催 - 地元産品を使った料理教室や、生産者が直接語るトークイベントを開催することで、消費者に深い印象を残し、商品への関心を深めます。また、食の安全性や栄養価に関する情報を提供することで、購入意欲を刺激します。
5. フォローアップと顧客関係の維持 - イベント参加者や購入者に対して、継続的なコミュニケーションを行います。メールマガジンでのレシピ提供、新商品情報の提供、特別オファーなどを通じて、顧客との関係を強化します。

これらの戦略を総合的に展開することで、地元と異なる市場の階層へのアピールとリピーターの獲得が可能となり、地元産品の販売拡大とブランドの持続的な成長を実現できるでしょう。

【考察】

このような質問と回答のやりとりが、生成 AI を活用すると数分から数十分で可能です。習うより慣れろ。慣れて尚、習う。浜田市においても行政や議会で、モラルを持って扱えばルーティンワークの迅速化や課題解決、難題に対してのヒントを得る使い方が考えられます。生成 AI による回答が全てにおいて正しくないことも事実だが、それを見

極めるのも人間です。人間も生まれた時から正しいことを続けられている人は一人もいないのに、なぜ生成 AI や新たなテクノロジーに、人は否定的な見方や意見を発するのか。人が優れているといった思い込み、驕りではないでしょうか。

例えば仕事を奪われるなど、自分には無いアイデアを瞬時に出し、トレーニングを積み、具体的な情報を得て的確な質問を投げかけていく中で、よりの確な答えを返す。果たして人が短時間で変化し進化できるだろうか？進化し続ける生成 AI を全否定はできないであろう。

このような議論を全国から集まった地方議員 30 名で、情報交換や行政や議会の問題点の共有を図り新たな繋がりを生む研修は、刺激的であり元気をいただけ、大変良いものだと実感し、中級編の生成 AI 活用研修会の開催を強く願う。と主催者へお願いしました。

「驕れる者久しからず ただ春の夢の如し」人が地球を支配したかの様に振舞っていた時代も、人の手により生まれた生成 AI の活用が広まることにより「今までとこれから」を考え直す時に入ったのではないのでしょうか。桜が散り、つつじが咲き始めた都心を歩き人と車両の往来を眺めながら、どこへ向かうべきか思案しました。